

豊かな水源を未来につなぐ

青下の杜プロジェクト



青下川は、青下第一ダムを越水した先で広瀬川と合流する



青下水源地内には散策路も整備され、豊かな自然に触れることができる



仙台市水道記念館。水道の仕組みや、水と森林の関わりなどについて学べる施設

広瀬川の支流、青下川流域の「青下水源地（青葉区熊ヶ根）」は、仙台市の貴重な水道水源の一つです。周囲には水源涵養林が広がり、きれいな水を生み出す上で重要な役割を担っています。「青下の杜プロジェクト」は、この豊かな水源地の環境を守ることを目的とした、仙台市と民間企業の連携による水源保全プロジェクト。水源涵養林の間伐や植樹、水源地周辺の清掃などの活動を行なっています。

爽やかな秋空が広がった10月17日、青下水源地の仙台市水道記念館で、地域の子どもたちによる花植え体験が行われました。講師から植え方を教わると、プランターに土を入れビオラ

の苗を手際よく植えていきました。完成した30個ほどのプランターは水道記念館の玄関前に並べられ、来年の5月ごろまで訪れる人を出迎えてくれます。こうした活動は、子どもたちに環境保全の大切さを伝える貴重な機会にもなっています。私たちが普段何げなく使っている水道水。その水源を守るため、官民連携の取り組みは続きます。

あしたのみどりキャンペーンは、これからも花壇づくり支援などの活動とともに、杜の都仙台のみどりを未来につなぐための取り組みを応援していきます。



10月17日、プロジェクト協力企業の支援により行われた「花植え体験」



「花植え体験」には、上愛子小学校の6年生（左）と、熊ヶ根保育所の5～6歳児が参加



「花植え体験」には、上愛子小学校の6年生（左）と、熊ヶ根保育所の5～6歳児が参加



9月28日、協力企業の社員らが参加し、青下水源地内の間伐作業を実施。「仙台市森林アドバイザーの会」の指導のもと、予想以上の重労働に汗を流した



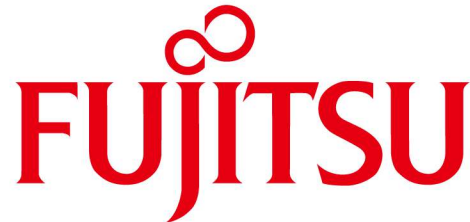
9月28日、協力企業の社員らが参加し、青下水源地内の間伐作業を実施。「仙台市森林アドバイザーの会」の指導のもと、予想以上の重労働に汗を流した



10月12日には、巣箱を設置。子どもたちは敷地内でどんぐり拾いを楽しんだ

清らかな水を蓄える青下第1ダム。上流には青下第2・第3ダムもあり、周辺には水源涵養林が広がっている

企画協賛



一般協賛



本キャンペーンは、ご覧の各社・団体の協賛により実施しています。

主催／河北新報社 協力／仙台市